

ツの効用が期待されるという側面がある。また、人との交流が減少したことが青少年の心身の不安定を招き、社会の大きな負担となり始めていることについてもレッツが何かしてくれるのではないかと期待もある。大型店舗の進出に圧されて衰退化する商店街を生き返らせたいとか、過疎化の村に活力をととか、それぞれに切実な要求である。

だから、厚生省、文部省、通産省が、これに注目し、後押ししようとしているのは正しい選択である。しかし、このような民間の善意と労力で補えることには限りがあるというのもまた事実である。

いくらレッツの仲間がお年寄りを支えても、巨大な赤字国債の解消にはならないし、いろいろな公共事業によって破壊された自然はもとにはもどらない。私達は地道に地域でできることに頑張ると共にやはり、社会のシステムを変えなければならぬ。

より大きな利益を生み出すために、あらゆるものを均質化、集中化していこうとする大きな力に疑問をいだくこと。レッツに加わってそれを実感できるということが、実は一

番大きな効用かもしれない。

なおこの論文の執筆に際しては札幌市の秋山真澄氏、North London LETS の Mary Feely、Andrew Morrison 氏、South East Essex LETS の Graham Burnett 氏、Green Adventure の Stefania Stega 氏のお世話になった。記して謝意に変えたい。

◆乾淑子（いぬいとしこ）さんプロフィール

北海道東海大学教育開発研究センター助教、専門は民族芸術と環境教育、環境問題の解決のためには経済と社会の仕組みを変える必要があると考え、現在ロンドンで、近代化によって人の意識がどのように変化したかを美術の観点から研究し、レッツにも参加している。

NOPE No.15
4.5月号

8 地域通貨の向こう側を見るもの

特集

インタビュー 西部 忠さん（北海道大学経済学部助教授）

聞き手・編集委員 富塚 廣

地域通貨はコミュニケーションを豊かにする

— いまなぜ地域通貨が注目されているのでしょうか。

西部 一九九〇年代から顕著になってきたグローバル化、グローバルといわれる地球規模での市場の拡大に対して、カウンター・ムーブメント（対抗的な運動）として出てきていると思います。もうひとつは、地球環境、高齢化、福祉・介護の問題、NPO・NGO、ボランティアの活性化、住民の政治参加、そしてIT（情報関連テクノロジー）が地域通貨の可能性を開いているということもあります。地域・学校・家族などのコミュニケーションの衰退も要因です。

私がとくに考えているのは「コミュニケーション」との関連です。少年犯罪や性の商品化が問題になっていますが、

それはグローバル化のひとりの出来事と私は見ています。グローバル化というのは、EUやNAFTAに見られる通貨統合圏や自由貿易圏の成立といった空間的拡大だけでなく、一方で商品化が深く進んでいくプロセスを意味しています。遺伝子組換え食品や人間の臓器、ヒトゲノムのような遺伝子情報が商品として売られる時代になっていくと思います。こうして商品化が人間の内面にまで深く浸透してくると、貨幣という一元的情報のみが肥大化して、我々の持っている多様なコミュニケーションの可能性が小さくなっていきます。結果として、言語によるコミュニケーションが貧困化します。これがコミュニケーションの衰退につながっているのだと思います。

九〇年代のさまざまな問題を重ね合わせると、グローバ

ル化された市場と貨幣、つまり「お金」というものが非常に問題であることが分かります。このお金をどう変えていくか考えないところから問題を解決できません。親のしつけとか教員の質の問題は、現象的・表面的事柄で、一番深い部分で大きな変化が起こっていることを考えていくべきです。

もうひとつは、九七年にアジア・南米・ロシアで起こった通貨危機です。グローバリゼーションへの危機感が広く浸透し、世界的に反グローバリズムが生まれています。昨年のWTO閣僚会議への反対デモもそうです。ただ、反グローバリズムが感情的反発になると危険なナショナリズムへ流れていく懸念があります。冷静に考えないといけません。地域通貨は、これらさまざまな問題を解決する大きな可能性に満ちていると思います。

地域通貨とは何か

「地域通貨とは何なのか。また、西部さんはなぜLETSに注目されているのですか。」

西部 地域通貨といっても、いろんな種類があります。それは、コミュニティ・マネーともいわれるように、コミュニティの参加者が財やサービスを自発的に交換しあうためのシステム、あるいは、そこで流通する貨幣の総称です。

トワークが不可能になってしまいうので、手段はいいが、単なる手段でなく、どこかに目的として扱うものを持っていることが必要です。プラスチックが要るということです。それを持っているのがLETSとかの地域通貨です。この四つの理念を含むものならば、どんな価値観・考え方もそこに載るので、非常に汎用型のプラットフォームになります。

LETSに注目する理由

西部 地域通貨を大きく分類すると、管理者や委員会が独自に紙幣を発行するタイプの集中的発行方式（イサカアワー、ヴィアなど）と管理者が売り手と買い手の双方の口座に黒字と赤字を記帳する、言い換えれば買い手が自発的に貨幣を発行する分散的発行方式（LETS、タイムドルなど）があります。

また、通貨価値が労働時間にリンクするのはタイムドル、国民通貨にリンクするのがLETSやヴィア。両方にリンクするのがイサカアワーです。図1を見ていただくと分かるのですが、発行方式と単位が重要な違いです。集中的・独占的な国民通貨のカウンターパートとして、私は地域通貨の意義は分散発行方式にあると考えています。単位については、労働時間一時間＝1グリーンドルなどと固定的に

共通した性格を取り出すと、①信頼を基盤として互酬的な交換をめざす②地域通貨の域内循環によって地域経済の自律的成長を確立する（持続的成長、インフレ・失業の解決）③ゼロないし負の利子によって信用創造、投機、独占的資本蓄積を阻止して、財やサービスの取り引きを活性化させる④福祉や介護などの非市場的サービスを多様な観点から評価するしくみを提供し活性化⑤NGO・NPOの労働・消費、福祉、教育などに関する諸活動を横に連結させる枠組み、理念を提供する⑥人々の間に「安心」でなく、「信頼」を築き、貨幣交換に一元化しているコミュニケーションを多様で豊かにものにするということ。



地域通貨には自由・協同・共有・情報公開という四つの理念があります。柄谷行人さん流に言うところ「人間を手段としてのみならず、目的として扱え」ということです。経済的利益を獲得するための手段として扱われないと市場の分散型ネッ

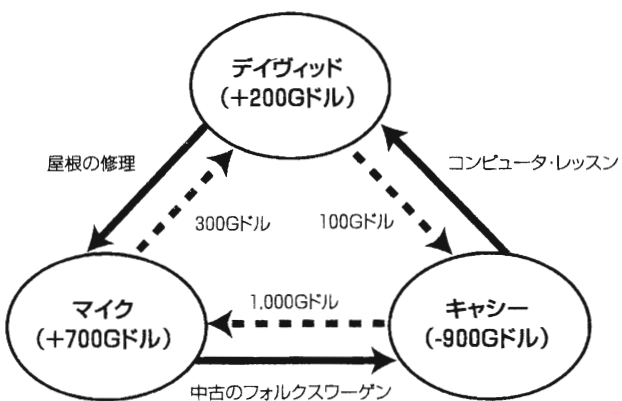
図-1 各種地域通貨の比較

	国民通貨	イサカアワー	タイムドル	LETS (LETSystem)	WIR
設立年 場 所 参加団体数	各国国民家ないし経済共同体 (EU)、変動相場制	アメリカ・NY州イサカ、1999年、アメリカ、カナダなどに60団体	アメリカ、1986年、せ全米200団体5万人、カナダ、フランス、日本にも	カナダ、バンクーバー島、コモックス・ヴァレー1983年、先進国を中心に2000地域	スイス・バーゼル、1934年、参加者8万人、年間20億ドルの取引額
単 位	ドル、ユーロ、円など (ドルが国際基軸通貨)	1イサカアワー =労働1時間 =10ドル	労働時間を単位	1グリーンドル =1カナダドル	1WIR =1スイスフラン
発行方式	中央銀行(不換紙幣)と民間銀行(信用創造)	集中発行方式(紙幣)	自律分散的発行(配帳方式)	自律分散的発行(配帳方式)	集中発行(紙幣)+自律分散的発行
利子、価格、併用	債券・預金は有利子、信用創造可	無利子、貨幣供給量の委員会による管理、国民通貨との併用可	無利子、通貨価値が時間に固定、国民通貨との併用可	無利子、価格決定は自由、国民通貨との併用可	低利子の貸付あり、紙幣は相互信用決済時に使用、国民通貨との併用を前提
特 性	市場経済の中核、投機、不況と失業、環境の問題	オーウェンの労働証券に類似、低所得層を中心に平等を実現	福祉、ボランティアなどサービスに利用	特に先進各国で最も普及した地域通貨、簡便かつ汎用的、ICカード型あり	最古で最大の地域通貨システム、スイス全企業の17%、76000社が参加、POS・電子決済利用

決めないで、個人が相対でその場で決めていく自由度を残しておいた方がいいと思います。

ボランティアやサービスに限定した地域通貨であれば、タイムドルでもいいですが、一般の財や商品に取り引きが

図-2 LETSによる取引の一例



【GDL=グリーンドル、実践矢印は財・サービスの流れ、点線矢印はグリーンドルの黒字の流れ、カッコ内は全取引後の各参加者の口座残高を表す】

義はほとんどそこに出ています。

恐慌による不況、失業の打開策として、オーストリアのヴェルグルでは、ゲゼルの理論に基づいて自由貨幣、つまりスタンプ付貨幣を導入しました。毎月1%ずつ価値が減っていく貨幣ですから、人々はなるべく早く使おうとし、流通速度が早くなって、財の循環が良くなりました。これが循環型経済をつくり、地域経済の自立性を高める地域通貨の大きな意義です。

二番目に重要な意義は、福祉やボランティアなど非市場的領域に地域通貨が適用可能ということ。商品として売買されていなかったこれらのものに地域通貨を適用すれば、北海道と東京都のように場所が離れていたり、あるいは今と十年後のように時間が異なる場合にも、人々の間で相互扶助を行うことができるわけです。

三番目は、意味・価値・考え方で結びつくネットワークが可能になり、それを創り出すメディアとしての地域通貨の意義です。地域は普通に考えれば物理的に区切られた空間です。近傍というのは、中心からどれだけ近い所にいるかで地域を区切る考え方は、その場合、この真ん中の点は物理的である必要はなく、意味的空間における点であってもいいわけです。共通に持っている関心や意味、価値のまわりに人々がどれだけ近くににいるかは、物理的空間の地域とは違った意味をもちます。もちろん、そこには物理

広がっていく可能性を考えたとき、市場のもつ自律的決定の構造を残しておく方が、将来的な発展の可能性が大きいということ、両方の性格をもつLETSに注目しているわけです。

加藤さんは、LETSは貨幣部門における情報や価値を媒介するもので、限定的とおっしゃっていますが。

西部 私としてはそれには必ずしも賛同できません。非市場のものから出発しても、市場のものを含めて両方取り引きできる一般性をもったものとして地域通貨を考えるべきでしょう。LETSは単に市場的取り引きをしていると見るのは、LETSの可能性を小さく見ているような気がします。

価値で結びつくネットワークをつくる

地域通貨の意義や効果について、どう考えていますか。

西部 日本では、近代以前、村落共同体で「結」や「講」がありました。しかし、これは共同体の中では強制的に駆り出される側面があつて、地域通貨に近いとはいえず、同じとはいえません。近代的な地域通貨の発祥は、ロバート・オーウェンの労働証券まで遡ることができますが、現在の地域通貨に密接に結びつくのは、一九三〇年代の世界恐慌の中で出てきた地域通貨の運動です。狭義の地域通貨の意

的制約があるわけで、それを解除してくれるのが、インターネットのようなITです。

例えば、「エコロジー」に関心をもつ人が集まります。ただ集まるのではなく、「エコロジー・マネー」を媒介に経済圏をつくり出します。ここでは、取り引きの一定額をエコロジー活動の助成に使うこともできるし、そのコミュニティで扱う商品を選ぶこともできます。賛同して入ってくる企業がモノを売るとき、買い手であるコミュニティの人から評価を受けざるをえません。またここでは、自分たちは消費者であるだけでなく、供給者でもあることで、ひとつの経済圏をつくることのできるのです。自律性を持ちつつ、現在の市場構造に対してさまざまなメッセージを送ることができるのです。生協型運動もそこに地域通貨を持つてくると、違った可能性が出てくると思います。

こうしたさまざまな地域通貨がネットワークを結んでいくことで大きな輪にしていくことを考えてもいいですね。全体としては、分散型ネットワークをつくっていく。どこかに中央があるわけでもなく、お互い各々の拠点を持ちながら、そこに人々が集まって、自発的に自己組織化されていくネットワーク。その先どうなるか、未来の展望はすぐ見えてくるわけではないですが、自然に成長し進化していくようなダイナミックな側面を地域通貨は持っていると思います。

市場経済のオルタナティブ

「グローバリズムが生むさまざまな問題を解決できるのは、地域通貨しかない。」

西部 市場はまさに分散型ネットワークで、成長が早いし、さまざまな多様性を生み出す複雑系です。単純な発想の運動では市場に取り込まれてしまう。対抗するには、同じような性格をもつシステムをつくるしかない。それが地域通貨の意義です。

お金というのは、一元化して情報をパッケージにして人に渡し、商品と交換するわけです。パッケージ式にカプセル化した情報を受け渡していくのです。地域通貨はその特性を受け継いでいますが、利子がつかないので、価値増殖する面はないし、バブルや経済の不安定性をカットするという点で非常に優れています。もうひとつは価格づけの問題です。企業側は経済的コストにもとづいて価格を付け、買手側は得られる経済的効用や利益にもとづいて価格を評価します。地域通貨は同じような価値づけと評価の仕組みを使いますが、そこには参加しているコミュニティを大切に扱う気持ちやボランティアに対する感謝の気持ち、自然環境を大切にしたいなど文化的価値がプラスアルファとして入っています。どんな地域通貨を使うかで、それぞれ違う意味が入ってきます。こうした点で、国民通貨以上のこと

われましたが。

西部 地域通貨は、個人をコミュニティの参加者である仲間結びつけるので、コミュニティを再活性化します。若者のコミュニティの形態は携帯電話によっています。しかし、これは友だちや恋人同士の中で最初から一体化されていて、つながっていることを確認しあう道具です。だから、言葉を通じて新しいものを理解するとか、自分とは異なるものに出会うとかではなく、本当の意味のコミュニティではありません。

それより、同じ若者に人気のあるフリーマーケットの方が、意味があります。自分が作った小物などを置いて、人から評価される。緩やかだけど、他人との直面があつて、コミュニケーションの意味があります。権力的関係がどうしても入る市場と違って、売り買いの構造がフラットです。こういう若者の志向性にも地域通貨につながるべく可能性が大いにあります。

例えば、失業者は往々にして「リストラされて誇りを失った。自分は意味のない人間なんだ」と自分の尊厳や自己信頼を失ってしまいます。自分の尊厳を取り戻すのは、他者に認められることです。仲間うちで同情されても自信回復しません。コミュニティとはそういうものだと思います。LETSの参加者は「人々は自分に別の価値を見出し、目を輝かせ始めた」「あなたがやりたいことをコミ

ができるのが、地域通貨の意義であり、大きな可能性です。

九〇年代以降、市場経済が唯一最良の経済システムと言われてきましたが、わたしたちもいろいろな問題に気付き始めています。しかし、それをどう超えていくのか、何も展望がなかったのです。計画経済に戻れないし、ケインズ型の社会民主主義的な福祉国家も問題が出ています。その中で、新しいオルタナティブを見出すために、地域通貨は必要なものと考えています。

―西部さんの考える地域通貨は、グローバリゼーションを否定するものではないのですか。

西部 資本主義経済やグローバリゼーションを全面否定するわけではありません。グローバリゼーションの方向に行かないと、共同体に従属したり、中央に依存してしまったりして、個の自律性を持ってません。ただ、グローバリゼーションのマイナスイメージを野放しにしてはいけないということです。地域通貨で全部解決するとは思いませんが、一番重要な方向であると思っています。なぜなら、貨幣は市場経済の根幹をなすものだからです。その上で、NPOやNGO、協同組合の活動も重視されなければならないと思います。

自己信頼を取り戻すコミュニティの道具

―とくに、コミュニティの問題を重視していると言

ユニティが求めているとき、あなたは自分をずっと素敵に感じるでしょう」と語っています。

今の若者は、他者に直面するのが恐いと避ける傾向にあります。地域通貨はみんなが自分を開いていくことで成り立っているので、自分を開いていくことにもなります。

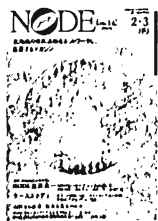
「賃労働でなく、起業を」

―柄谷行人さん(文芸評論家)は編著書「可能なるコミュニティ」で、失業者は賃労働過程に戻るのではなく、地域通貨を通じて起業家になるべきだ、と言っています。地域通貨が、賃労働から人々を解放することにつながるべくどう考えですか。

西部 強い個人は市場で頑張れますが、弱い個人もいます。そういう人に関しても、起業の方、自立することを考えるなら、自分のタレントを独自に見出していかなければなりません。そのとき、地域通貨は意味のあるものとなると思っています。地域通貨は一元的価値に特化していくのではなく、多様なものを求めています。その中で、起業家になるという自立性を持つことは重要だと思います。

―イギリスのLETSは急成長で、二〇〇五年にはGDPの三〇―四〇%になると言われていますが。

西部 現在でGDPの五―一〇%のレベルになっていると



<2000年2.3月号>No.14
山村から教育・社会を見る—
かけがえのない人間として
生きる場の回復を 内山 節
さん(哲学者)
◎座談会「NPO法施行から1
年……NPOのパワーアップを
めざして」
◇渡辺克生さん(元道庁赤れん
が政策検討プロジェクトメン
バー)◇佐藤隆さん(NPO推進北海道会議事務局長)◇
米田秋未さん(介護グループむらさき理事長)◇西城戸
誠さん(北海道大学院生)
◎NPOインタビュー①ふらの演劇工房 ②トラスト
サルン ③知床ナチュラリスト協会
<市民活動の広場>
◎高齢者下宿「ユースフルデイズ」◎NPO法人介護
グループむらさき
◎赤レンガ・政策検討プロジェクト [近況報告]
◎【北海道野生動物最前線15】「高速道でエゾシカと
衝突したら、その責任は運転者にあるのか」
◎地球への旅(最終回) エトロフ島探検記◎地域で育
むFMコミュニティ放送局[ラジオカロスサポロ]



<99年11・12月号>No.13
特集/「農のある暮らし」への
招待状……自分らしく生きる・
農業編
●三十歳の直前、新規就農しま
した●農業という暮らしにたく
さんの人が感動してくれる●田
舎暮らしのすすめ●定年帰農の
すすめ●暮らしは農家、職業は
医家●小さな畑から、自然を感
じる暮らし●有機農業とは●街を耕す八百屋●マイベ
ース酪農
公開座談会「定年帰農村をつくる」
◇佐々木寅雄(佐々木農村研究所)◇山田晃陸(栗沢町
長)◇田岡克介(石狩市長)◇高木晴光(ねおす代表)
【市民活動の広場】絆送を考える市民の会・循環(くる
くる)ネットワーク北海道・リンカーンフォーラム北海
道・非核平和条例全国交流集会In函館・I-CISの企業
市民ネットワーク活動
【特別寄稿】北海道は自然エネルギー大国をめざせ[治
3号機問題への考察]……日本総研主任研究員/飯田哲
也◎地域で育むFMコミュニティ放送局・FMくしろ◎
北海道野生動物最前線



<99年9・10月号>No.12
特集/孤独にならない、こんな
暮らし……ひとりでも大丈夫、
家族でも大丈夫
●北大恵迪察 ●女三人暮らし
●草の実ハイツ ●老人・障害
者下宿「コーボ愛和」●グル
ープホームきたの ●沈没家族 ●
コーボラティブ住宅 ●イスラ
エル「キブツ」滞在記
◆何が起るかわからないY2K問題 ◆反小林よしの
り読本 ◆地域で育むFMコミュニティ放送局・アメリ
カ編 ◆北海道エコロジーギャザリング99 ◆道の「男
女共同参画プラン」に提言活動 ◆身近な河川環境を考
えよう--厚別川ウォーク
◆エトロフ島探検記



<99年6・7月号>No.11
特集/いま、北海道が元氣…
…祭りが地域を変える ●
SHINTOKU空想の森映画祭
●真夏の雲合戦Inあさぶ ●
余市町・神山慶子コンサート ●
下川アイスキャンドルフェス
ティバル ●とかちアートキャン
プ ●ISHIKARI WONDERLAND
風舞台98
◆ルポ・岐阜県東濃「超深地層研究所」 「核抜き」とは
「処分地への道」 ◆横延問題の現状と課題 ◆函館非核
条例、今迫られる自治体・市民の決断 ◆寮人市民によ
る手作り討論会運動 ◆札幌市民活動プラザを市民・行
政の協働の場に ◆釧路川の豊かな自然を守る ◆殺した
くない、殺されたくない「非防衛・非核」ネットワーク映
画館を

思います。NPOの広がり地域通貨の広がりにはパ
ラレルです。今、ELTSはイギリスで六百位ありま
す。日本は二十―三十なので、桁が違います。五―
一〇%レベルになれば、加速度的に伸びていくと思
います。―「地域」の内実として「複数の地域通貨
により多重的に形成されるネットワーク複合体」と
書かれています。具体的なイメージとしては、
西部 私が考えているのは、NPOが地域通貨をど
んどん発行していく。活動の共通性があれば、地
域通貨のネットワークもつくっていく。多重の意
味は、一般の通貨における市場経済の側面と地域
循環を支える地域通貨、そして価値的ネットワ
ークで流通する地域通貨が三重構造になって
動くというイメージです。
―地域通貨の流通が国家の利益と衝突する場
面も出てくるのではないですか。
西部 三〇年代ですが、オーストラリアのヴェ
ルゲルでは地域通貨が中央銀行により潰されま
した。今のところ、地域通貨が普及している先
進国ではこうしたことは起こって

ませんが、五―一〇%のレベルに達したとき、
どうなるかという問題はあります。日本でも電
子マネーをめぐる通産省や郵政省が綱引き
をしています。それがインターネット上で大
量に流通しだすと、日銀・大蔵の権益をおか
すことになるでしょう。大きな争点になる
ものと考えられます。官僚型国家の日本では、
欧米とくらべると地域通貨の草の根レベル
での自発的な形成と流通には特有の難しさ
があるでしょう。そうした困難をも克服して
いくものと期待しています。

◆西部 忠(にしべ まこと)さん略歴
一九六二年生まれ。著書に『市場像の系譜学』(東洋
経済新報社)『可能なるコミュニティズム』(共著、大田
出版)など。
<http://sun.econ.hokudai.ac.jp/~nishibe>